

令和6年度 北海道留寿都高等学校自己評価結果の学校関係者評価

学校名	北海道留寿都高等学校
-----	------------

分野	No	評価項目	達成状況	取組の適切さ	今後の取組の方向性や改善の方策	学校評議員からの意見・要望	自己評価の結果の内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善の方策の適切さ
学習指導	1	学校の教育目標及び生徒や保護者の要望等を十分踏まえた教育課程が編成されている。(教育課程とは、各教科のみならず特別活動等も含めた学校の総合的な教育計画のこと)	B	A	1 地域や保護者との交流をとおして要望をていねいにくみ上げながら、社会に開かれた教育課程の編成に当たる。	・卒業証書授与式における送辞を聞いていると学校生活全体に興味があり、このような学びをしてきたのだというふうに理解もできた。今後も学習指導をしっかりと続けて欲しい。 ・留寿都村の事業と連携し、学びを深められるような取り組みを進めて欲しい。 ・公開授業では、小人数クラスのメリットにより、先生が生徒を把握しながら授業進行していると感じた。	A	A	A
	2	前年度の教育課程の評価・反省がなされ、改善事項が明確にされて次年度の教育課程の編成や実施に生かされている。	A	A	2 各教科担任の授業評価の結果を共有し、授業改善に取り入れるためスピード感を持って取り組む。				
	3	学習指導の準備や実施にあたって、学年間や教科間の連携・協力が十分に行われている。	A	B	3 単元配列表を基に全校的な話し合いを行い、教科横断的なカリキュラムを策定することを継続する。				
	4	各教科・科目等の指導で、生徒の興味・関心を喚起するため常に授業の工夫改善がなされている。	B	A	4 ICT機器を積極的に活用しながら授業改善に当たるとともに、校内研修で研鑽を深める。				
	5	各教科・科目のシラバスを作成し、学習の目的や学習方法等を事前に生徒に説明している。	B	A	5 観点別評価や授業改善について校内外の研修に積極的に参加し、研鑽を深めるように取り組む。				
	6	教科指導目標を明確にし、教科ごとの学習指導法及び評価の研究に努めている。	B	A	6 目標・評価についてはシラバスを作成する際に十分に検討するとともに、他校の良い事例を参考にした取り組みを促す。				
	7	教科の研修はもとより、校内研究・研修に関する年間計画が策定され積極的に推進されている。	A	A	7 授業改善セミナー等各種研修を周知しながら積極的な参加を促す。				
生徒指導	8	生徒指導の目標・重点が明確にされ、各教科・特別活動との関連や家庭・地域との連携を図った全体計画が作成されている。	A	A	8 生徒指導提要の理念を改めて確認し、最新の情報を取り入れることを心がけ、毎年校則の見直しを図る。	・高校生だけではなく、SNSに対する注意喚起が必要となっている。この部分の指導を継続して欲しい。 ・いま話題になっている「闇バイト」に対する指導を特にして欲しいと思っている。いろいろ取り組まれているのはわかったので継続して欲しい。 ・ヤングケアラーなど18歳以下の子供達が自身で対処困難なことへの取り組みを推し進めて欲しい。	A	A	A
	9	教育相談については外部の諸機関との連携も含め、組織的な協力体制のもとで進められている。	B	A	9 サポート委員会を中心にSCとの連携を含めて生徒一人ひとりに寄り添う指導を心掛ける。				
	10	健康・安全教育の目標・重点が明確にされ、生徒が命の大切さを理解し健康で安全な生活が送れるような指導がなされている。	A	A	10 命の大切さを学べるような機会をつくるとともに、防災計画の見直しを継続していく。				
	11	教育活動全体を通じて互いを思いやる気持ちを育ていじめの予防に努めるとともに、全教職員でいじめの早期発見・早期解消に努めている。	B	A	11 思いやりを持ち学校全体で生徒を見守る気持ちを大切にする。				
	12	ホームルーム経営が家庭及び他学年や関係分掌との連携のもと、計画的かつ円滑に行われている。	B	B	12 ホームルーム経営は学年団全体で年間計画に沿った活動を実施する。				
	13	全ての生徒・教職員が生農会(生徒会)行事の意味やねらいを理解し、生徒の活動に積極的に関わっている。	A	A	13 生徒が自身で計画・準備をして取り組める内容を執行部等と話し合い、新たな学校づくりを目指す。				
	14	部活動への積極的な参加を促すとともに、学習と両立させる工夫や指導が十分に行われている。	B	A	14 働き方改革に逆行せず、部活動指導に積極的にかかわるように体制作りを検討する。				

令和6年度 北海道留寿都高等学校自己評価結果の学校関係者評価

分野	No	評価項目	達成状況	取組の適切さ	今後の取組の方向性や改善の方策	学校評議員からの意見・要望	自己評価の結果の内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善の方策の適切さ
進路指導	15	進路実現に係る様々な情報や資料の収集に努め、迅速かつ適正な情報提供を行っている。	A	B	15 情報の精査を継続するとともに、講話や職業別ガイダンスにおいて外部の人材・機関の有効活用を図る。	・授業において、Z世代特有の社会に出てから他者とのコミュニケーションで困る様子を感じないことから、先生からの日常的な働きかけが双方向で実現されていると感じた。 ・多岐にわたる就職先があるのは良いと思う。	B	B	A
	16	一人ひとりの生徒の自己実現を援助するために、入学から卒業までを見越した計画的な進路指導を行っている。	B	B	16 入学から卒業まで自分の将来をイメージしながら計画的にキャリア指導に取り組めるようにするための指導法を研究する。				
	17	職場体験、進路講話、施設見学などを通じて自己の生き方や将来の展望を考えさせる、キャリア教育を行っている。	B	A	17 キャリアパスポートの利用を促進する。				
寮運営	18	寮の運営が家庭、学年および関係者との連携のもと円滑に行われている。	B	A	18 教員間の情報共有を図る。寮生の成長を促し生徒の主體的・自律的な寮生活を心掛ける。	・他校で出てきた寮生活でのいじめがないように指導してください。	A	A	A
専門教育	19	農業や福祉の実習を通して関連する知識の習得や技術を高めるとともに、望ましい学習態度の育成が図られている。	B	A	19 地元福祉施設との連携を図りながら情報共有を図る。普及所と連携しながらJGAP認証の更新に取り組む。	・ITを活用した授業進行など、農業分野でもテクノロジーを活かした教育が行われていることが素晴らしいと感じています。	A	A	A
	20	農業や福祉の校外実習の目標が生徒に十分説明され、教育効果の高いものになっている。	B	A	20 引き続き、目的を十分に説明し、教育効果が高まるように取り組んでいく。				
家庭・地域との連携	21	全教職員がPTA活動に積極的に関わろうとし、充実した活動になるように努めている。	B	B	21 保護者の要望を整理しながら生農会と連携した企画立案を継続する。	・せっかく良い取り組みをしているので、SNSなどを活用して「来てもらえる学校」となるようにして欲しい。	B	B	A
	22	学校の教育課程や特色ある教育活動などについて、保護者や地域の人々に対して十分な説明がなされている。	A	A	22 学校ホームページ、報道機関等と連携する。またSNSの活用方法を検討し、情報発信を強化する。				
組織運営	23	教育目標には生徒、保護者、地域住民の要望が反映されている。	A	A	23 農業・介護福祉士の人材育成について村や地元関係機関と緊密な連携を図る。 24 分掌間の連携を図りながら継続する。 25 中間反省や年度末反省をもとに改善を図りながら継続する。 26 分掌会議の定例化を図る。 27 年度末反省における評価を適切に進める。学年の引き継ぎやLHRの計画を確実に行う。 28 各分掌と学年間の引継ぎをスムーズに行い連携強化を図る。 29 村教育委員会と連携しながら計画的な施設・設備の更新、整備を行う。 30 学校事務との連携を図りながら継続する。	・今年度、トラクタを導入してもらったので、いまの農業に近づけるように努力をして欲しい。 ・先生方もレベルアップできるような取り組みをお願いしたい。	A	A	A
	24	学校の教育目標を具現化するという意識のもと各分掌・学年の計画が作成され、その計画を常に意識しつつ日常の教育活動が行われている。	A	A					
	25	各分掌・学年の評価・反省が適切に行われており、それに基づいて年度の重点目標の設定や学校課題の改善が図られている。	B	A					
	26	重点目標の実現を図るため、各分掌の運営計画及び学年目標の設定や経営計画の作成がなされている。	A	A					
	27	各分掌・学年・委員会の活動についての評価・反省が計画的に行われており、改善・充実が図られている。	B	A					
	28	各分掌・学年の文書や資料が整理・保管されており、事務の引継ぎや相互の連絡調整がスムーズに行われている。	B	B					
	29	施設・設備及び教材・教具の現状が明確であり、定期的に点検され年度ごとの整備・拡充計画が立てられている。	B	A					
	30	学校事務が適切かつ円滑に行われている。	A	A					